



ご挨拶

本日は「A-Winds56」2012年 春の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡 山市」のお城の麓「やまと郡山城ホール」で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに、A-Winds一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月「アンサンブル」という少人数の音楽スタイルの延長上にと位置付け「ウインドオーケストラ」と称し、大人数の編成で、遷都1300年の歴史を誇る奈良の都に発足しました。

同年の秋に初の舞台「デビュー演奏会」を開催し、以後四季折々に開催する、A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラの定期演奏会も、お陰さまを持ちまして、第36回目の演奏会を迎えることができました。

これもひとえに、我々A-Windsの活動、そして音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と、団を代表致しまして、心より厚く御礼申し上げます。

演奏面は勿論、運営面において、団員一人ひとりが『主人公』ということと、吹奏楽本来の特徴を最大限に引き出す『吹奏楽オリジナル作品』を中心に取り上げることを活動方針に掲げ、アマチュアながらも、音楽表現の研究に、作曲家の方々を実際に練習にお招きして、作曲家自身による作品の生立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合奏指導を受けたりと、様々な啓蒙にも取り組み、活動を続けて参りました。

我々A-Windsにとっての作曲家といえは、A-Windsの為に作曲をお願いをした、委嘱作品「吹奏楽の為にマインドスケープ」の高昌帥氏。

今、日本で最も活躍されている作曲家でもあるその高昌帥氏を、今回は客演指揮者にお招きし、作曲家のみこそが知りえる世界へ、舞台そして客席の皆様と一緒に、陶酔できればと願っております。

瞳を閉じて 光の世界の 笛太鼓

今後とも、温かい御指導御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ 団長 魚谷昌克

*

本日は「A-Winds56」2012年 春の演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。今回のテーマは「吹奏楽の調べ」と題し、いつもなら午後から開演するところを夕方4時より開演とし、夕刻から夜へと吹奏楽の調べで楽しんで頂けるプログラムをご用意しております。

第1部は今年の干支に因んだ曲で華々しく始まり、懐かしの吹奏楽課題曲。そしてメイン曲は、聞く者すべてが「ほのぼの」とした気持ちにさせるアイルランド地方の民謡や風景を折込んだ「ハイランド讃歌」と続きます。

第2部は、作曲家として数多くの素晴らしい作品を生み出しておられる高昌帥氏をお招きして、夜の時間へと誘います。1曲目は、誰もが幼い頃を思い出させるあのメロディを様々なアレンジで綴る「きらきら星変奏曲」そしてメイン曲では汽笛の音や、お化けが出てきそうな音、薄暗い駅のホームや列車が豪速に走っていく様子が次々に映像として頭の中に浮かんでくる「ゴースト・トレイン」をお届けいたします。

団員一同、曲に込められた風景や思いを皆様にお届けできますように、心を込めて演奏いたしますので、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

最後に、本公演開催にあたり関係各方面よりご支援賜りました事を、演奏会実行委員を代表して厚く御礼申し上げます。

「A-Winds56」2012年 春の演奏会 実行委員長 佐藤 由加里



ご案内

「A-Winds57」2012年 夏の演奏会

2012年6月24日(日) 14:00開演 やまと郡山城ホール 大ホール

「A-Winds57」2012年 夏の演奏会では、

名峰モンブランを望むアルプスを舞台とした名曲「モンタニヤールの詩」に挑戦します。

梅雨明けが待ち遠しい頃、A-Windsと共にアルプスを巡る旅に出かけませんか?

皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

「A-Winds57」2012年 夏の演奏会 実行委員長 長尾 恭子



A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ

Flute & Piccolo

佐藤 由加里 ♪
佐藤 司 ♪
魚谷 陽子
西村 美音
坂下 英美 ♪

Oboe

松井 志穂 ♪

Clarinet

長尾 恭子
竹村 明恵
森本 幸恵
八木 望
野島 佳織
日野上 昌里佳
近藤 晴美
飯田 琴音
鶴田 裕貴
大西 晴己 ♪

Bass Clarinet

辻田 綾子 ♪

Bassoon

満江 孝文
萱原 美華子

Saxophone

島田 博一
初岡 和樹
宮本 祐輔 ♪
三宅 利幸

Horn

久野 耕三
次田 哲平 ◇
小林 計昭
大田 雅美
山中 美咲

Trumpet

魚谷 昌克
表 恭子
竹腰 綾香
井上 寛治
三方 裕司 ♪
谷田 弥生

Trombone

萱原 淳嘉
小泉 文浩 ♪
鈴木 恵子
進藤 梓 ◇
田中 由美

Euphonium

藤村 晃世
尾登 勇介 ♪

Tuba

岸本 和
小野村 謙 ☆

Percussion

森田 晶
谷口 麻子
久保 寛美
川本 理恵
松嶋 春香
荒井 智子 ☆
寺西 剛 ☆

Piano

八木 真木

Stage Manager

松本 清香 ☆

Announce

境 貴子 ☆

団員 = 48名

◇ = 休団

☆ = エキストラ

♪ = A-Winds56 実行委員



A-Winds メンバー募集

●募集パート

・オーボエ ・ファゴット ・ステージマネージャー ……各1名
・ホルン ・チューバ コントラバス ・パーカッション ……各2名
・Bbクラリネット ……3名

●A-Windsの活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方

●ご自分で楽器を準備できる方

●全ての活動に賛同頂ける方

●18歳以上の方

●詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp



2012年3月3日(土) 15:30開場 / 16:00開演
やまと郡山城ホール 大ホール

主催 ● A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ

後援 ● 奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



プログラム

◇第1部 団員指揮者：魚谷昌克

サモン・ザ・ドラゴン

Summon the Dragon

作曲：ピーター・グレイアム／Peter Graham

出版：Gramercy Music Publishing

吹奏楽のための「カドリーユ」

Quadrille for Band

作曲：後藤洋／Yo Goto

出版：All Japan Band Association

「ハイランド讃歌」組曲

Suite from Hymn of the Highlands

作曲：フィリップ・スパーク／Philip Sparke

出版：Anglo Music Press

- アルドロス城／ARDROSS CASTLE
- アラデール／ALLADALE
- ダンドネル／DUNDONNELL

◇第2部 客演指揮者：高 昌帥

キラキラ星変奏曲

"Twinkle, Twinkle Little Star" Variations for Wind Ensemble

作曲：天野正道／Amano Masamicz

出版：Brain Co., Ltd.

ゴースト・トレイン

Ghost Train

作曲：エリック・ウイッテカー／Eric Whitacre

出版：Hal Leonard

- 乗車／The Ride
- 駅にて／At the Station
- モーティヴ・レボリューション／The Motive Revolution



プログラムノート

サモン・ザ・ドラゴン／P. グレイアム

この作品は、1999年にウェールズ・ナショナル・ユース・ブラスバンドのサマーコースのために、ジェームズ・ワトソンの委託によって作曲された、きらびやかなファンファーレとプレリユードです。タイトルには、「トランペットとトロンボーンをフューチャーして」と添えられています。ブラック・ダイク・バンドの指揮者であり、フィリップ・ジョーンズ・ブラス・アンサンブルのトランペット奏者でもあったワトソンは、この曲の委託にあたり、作曲家グレイアムに、ワトソン自身もレコーディングに参加した「スター・ウォーズ」や「スーパーマン」のような、ジョン・ウィリアムズ風の音楽をリクエストしたとのこと。

本日演奏する吹奏楽版は、デイビッド・キング指揮サルフォード・ウインド・バンドのために作られました。

吹奏楽のための「カドリーユ」／後藤洋

この作品は、1983年度(昭和58年度)の全日本吹奏楽コンクール課題曲として作曲されました。曲名は18～19世紀にフランスで起こった舞曲の名称からとられています。

曲は、静かな、ゆったりとした導入部から始まり、軽快な6／8拍子のリズムな舞曲へと展開します。いろいろな楽器でメロディーが奏でられる、しゃれた、楽しい雰囲気音楽をお楽しみください。

「ハイランド讃歌」組曲／P. スパーク

この作品は、「ハイランド讃歌(Hymn of the Highlands)」として、デイビッド・キングとヨークシャー・ビルディング・ソサエティ・バンドの委託により作曲され、2002年ブリュッセルで開催されたヨーロピアン・ブラスバンド選手権において初演されました。オリジナルのブラスバンド版は7つの楽章からなり、すべてスコットランド高原地方の名にちなんでいます。すべての楽章が吹奏楽版への編曲に適しているわけではないため、吹奏楽版の作成にあたり、スパークは3つの楽章、すなわちアルドロス城、アラデール、そしてダンドネルを選び、本日演奏する『「ハイランド讃歌」組曲(Suite from Hymn of the Highlands)』を完成させました。

第一楽章であるアルドロス城はクラリネットとバスーンのソロから始まり、続いてバグパイプを模したメロディーが現れます。速いテンポの中間部では最初のテーマが形を変えて現れ、最後はゆっくりしたテンポで終わります。

スコットランド高原東部にある河の名前にちなんだアラデールは、サキソフォントリオとパーカッションをフューチャーした6／8拍子のゆったりとした楽章です。スパーク特有の、明るく美しいメロディーは、皆さんのところに安らぎと幸せをもたらすことでしょう。

最終楽章であるダンドネルはスコットランド高原西部の海岸地方にある小さな村にちなんで名付けられました。曲は、勇敢な主題に始まり、ステージ左右に分かれたトランペットによるファンファーレを経て荒々しいプレストへと展開します。第一楽章で聴かれたバグパイプチューンが再び登場したあと、プレストにだれい込み幕を閉じます。

キラキラ星変奏曲／天野正道

皆さんよくご存じの「キラキラ星」(詳しくは、モーツェルト作曲『「ああ、ママにいわわ」による変奏曲』)のメロディーを題材に、天野正道が巧みな色使いで吹奏楽にふさわしいアレンジを施した秀作です。今回演奏する2002年の改訂版では、いくつかの特殊楽器やチャイム、トライアングルなどが追加され、より輝かしい響きをもたらしています。鍵盤楽器によるオルゴール風の主題で始まり、変奏部分では各楽器にパートソロが現れる大変美しい作品です。

ゴースト・トレイン／E. ウイッテカー

忘れ去られた街から街へ、真夜中の溪谷に轟音を響かせながら疾走する幽霊列車“ゴースト・トレイン”にまつわる伝説は、アメリカの民話に深く根ざしており、この曲のスピリットとなっています。ウイッテカーは当初、汽笛や、近づいてきては通過して遠ざかっていく列車のドップラー効果による描写など、音楽的工夫に満ちた第一楽章を単独作品として創

作しました。これは1994年に初演されています。その後、第2楽章と第3楽章を加えた三部作が作られ、これは翌1995年に初演されました。

第一楽章　～乗車～

不気味なフルートソロにより曲が開始され、突然のtuttiのあと、霧がかかったような異様な雰囲気の中、フルートやトランペットミュートによる列車の警笛や、パーカッションによる踏切の警笛音などが交錯します。やがて列車は動きだし、徐々にスピードを上げていきます。第一のクライマックスを迎えた後、音楽は場面を変え、静かな車内の描写へと移ります。遠くで汽笛が聴かれる3／4拍子や5／8拍子を経て、曲は変拍子を変えながら徐々にヒートアップしていきます。スネアドラムが加わり、再び列車の描写に戻ってゴースト・トレインが爆走する様子が表現されます。楽章の最後では、ティンパニのロールから切れ目なく第二楽章に入ります。

第二楽章　～駅にて～

列車は轟音を立てながら徐々にスピードを落とし、シューという蒸気音とともに、駅のプラットフォームに到着します。天井の高い、巨大な駅の構内を思わせるような幻想的な世界がピアノや木管楽器により美しく表現され、ジャズ風のソプラノサキソフォンソロが現れます。グレイアム自身も語っているように、この楽章にはたくさんのイメージが詰め込まれています。駅構内の描写の他、列車から降りた乗客たちが懐かしい友人や家族と再会し談笑する様子や、彼らのおかれた時代の本当の誠実さと純潔さが、私たちの心にも伝わってくるようです。

第三楽章　～モーティヴ・レボリューション～

第二楽章から切れ目なく始まる第三楽章では、再びゴースト・トレインが走り出します。不気味な雰囲気の中、どこからともなくわき上がった上昇音階が、徐々に力を蓄え、列車を動かす原動力へと受け継がれます。華やかなベルトーンを経てゴースト・トレインが徐々に速度を上げていきます。列車は地方を縦横無尽に炎のように疾走し、月明かりはその暗い車軀を閃光のごとく輝かせ、最後は、機関車とそれに携わった人々への称賛をもってフィナーレを迎えます。

この楽章のタイトルには2つの意味が含まれています。1つ目は、1850年から1870年にかけて起こった、蒸気機関が交通を発達させた産業革命(Industrial Revolution)の時代を表し、2つ目はこの楽章を通して現れる主題(motive)を繰り返し用いる手法を表しています。

この曲は、トーマス・レズリーとネバダ大学ウインド・シンフォニーに捧げられました。

(文：三方裕司)



プロフィール

高 昌帥



Photo:Glück = Y.Iwoue

1970年、大阪生まれ。大阪音楽大学作曲科卒業後、スイス・バーゼル音楽アカデミー留学。これまでに作曲を田中邦彦、R.ケルターボーンの各氏に、指揮をJ.マイヤー氏にそれぞれ師事。

第5回吹田音楽コンクール作曲部門一位無しの二位

第13回名古屋文化振興賞作曲部門佳作

第1回コダーイ記念国際作曲コンクール佳作

第12回朝日作曲賞受賞(2002年吹奏楽コンクール課題曲「ラメント」)

第1回COMINES-WARNETON国際作曲コンクール「イヴ・ルルー賞」受賞
平成20年度JBA「下谷奨励賞」受賞

現在、大阪音楽大学助教。仁愛女子短期大学、ESA音楽学院、各非常勤講師。関西現代音楽交流協会、21世紀の吹奏楽“響宴”各会員。プロ・アマ問わず多数の委嘱を受け、管弦楽・吹奏楽・室内楽など様々な編成の作品を作曲する傍ら、アマチュアオーケストラや市民バンドの指導にも携わる。